PLUS +H

by HIP LAND MUSIC

2018 | SPRING #08

掲載情報は発行当時の物であり、
現在の情報とは異なる点もございます。
あらかじめご了承ください。

PLUS +H by HIP LAND MUSIC

祝！KANA-BOONメジャーデビュー5周年！

2018 | SPRING #08

PLUS +H by HIP LAND MUSIC

The fin.「そこ」にある日々を鳴らす

2018 | SPRING #08

Happy
Hello
HIP LAND MUSIC
Hope
Hear
Humor
Hero
Harmony
Honesty
Human
Home
Heart

"H" words make you more fulfilled.

PLUS +H

サカナクションやKANA-BOONなど数多くのアーティストを擁する
音楽プロダクションHIP LAND MUSICによる音楽メディア「+H(プラスエイチ)」。
「+H」がポジティブな感情をプラスします。

SPECIAL：01

KANA-BOON

祝！KANA-BOONメジャーデビュー5周年！

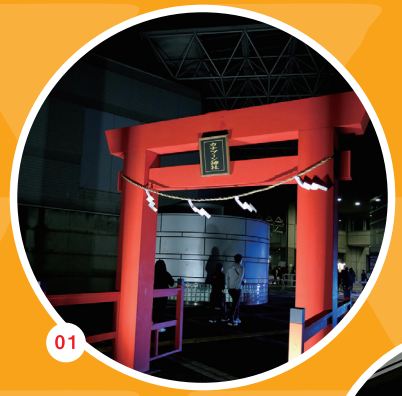
Photo：谷浦龍一

バイバイハローツアー 2017 年越し編
～バイバイ 2017、ハロー 2018！～

初の年越しワンマンライブ！わくわく潜入レポート！

昨年2017年12月31日にKANA-BOON初の年越しワンマンライブが、メンバーの地元であり、「堺親善アーティスト」も務める大阪府堺市で開催された。ライブだけではなく、趣向を凝らした催しなどで楽しませてくれる彼ら。バンド初となるこの試みに+Hスタッフが潜入！

Photo：gentahisada　Text：+Hスタッフ



01_場内に設置されたカナブーン神社の鳥居。
多くの人が記念撮影をしてました！
02_わくわく倍倍エリアではメンバー考案の
オリジナルフードが美味でした！
03_めしだ画伯のシュールな作品も大人気！
04_カウントダウンの瞬間！
05_ユーモア溢れるグッドデザインの「レンちゃんのお年賀タオル」とメンバー！

05

KANA-BOON初のカウントダウンイベントは、お客さんに楽しんでもらおうという思いが会場いっぱいに溢れており、まさに地元を愛し、地元に愛されているバンドKANA-BOONらしい空間だった。バンドが持つアグレッシブな勢いはそのままに、明るいのにどこか切なくなる傑作『NAMiDA』をリリースした2017年を締め括り、KANA-BOON5周年イヤーの幕を開けた。彼らの今後の活動に期待せずにはいられない。

KANA-BOON GO!GO! すごろく!

START

オレンジのマスはメンバーの手書き！誰が書いたかわかるかな？

1 2006 KANA-BOON 結成!! 練習楽しい！1マス進む

2

3 2011 三国ヶ丘FUZZ 初ワンマン!! 大成功！3マス進む

4 2012 Ki/oon Music 20周年記念オーディション「キューン20イヤーズオーディション」グランプリ獲得！ わーい！2マス進む

5

6 2013.4 Mini アルバム『僕がCDを出したら』で初の全国流通!! 自転車二人乗りを怒られる。1マス戻る…

7

8 2013.9 メジャーデビュー!! 1st シングル『盛者必衰の理、お断り』を発売！曲中の「寿限無」の一節を….

言えた！ もう一度ふる
あとちょっと！ 1コマ戻る
言えない… ふりだしに戻る

このマスはみんな止まってサイコロをふる

9

10 撮影で衣装を間違えてガチギレされる。1マス戻る。

11 列伝ツアー!! 人見知りしまくり!! 1回休む!!

12 2014 初の全国ワンマンツアー「KANA-BOONのご当地グルメワンマンツアー 2014」を開催！ 美味しいものを食べ過ぎる。1回休み…

13

14 ツアーでみんな太る。4マス進む

15 セッションが上手くいかない。スタートに戻る!!

16

17 2014.5 3rd シングル『フルドライブ』を発売！初のMステ出演！ 全力疾走で4マス進む

18

19 テレビで緊張して、ギター間違える。3マス戻る。

20

21 前髪を切りすぎる。1マス戻る。

22

23 2014.8 「KANA-BOON 野外ワンマン ヨイサヨイサのただいまつり！in 泉大津フェニックス」を開催！ 地元でまったり。1回休み…

24

25 ただいまつりで日焼けする。いたくて1回休み。

26 2014.11 NARUTOのOP担当!! 5th シングル『シルエット』を発売！念願の「NARUTO-ナルト- 疾風伝」OPテーマに選ばれる！こいちゃんの頭に帽子を乗せるのに..

成功！ もう1度ふる
失敗！ 1回休み

このマスはみんな止まってサイコロをふる

27

28 ツアーに向けて機材を一新!! 5マス進む。

29

30 歌詞がギリ間に合う。もう一回ふる。

31 「TIME」発売 忙しい!! ほどよく休む!!

32

33 2015.3 「KANA-BOONのとぅるとぅるかむとぅるー TOUR 2015 ～夢のアリーナ編～」で初の大阪城ホール、日本武道館でのライブを開催！ 楽しかったライブの余韻にひたる。1回休み

34

35

36 なんでもなだりでダンスが下手だと言われる。2マス戻る。

37 ダイバーのMVで絶叫マシンに乗せられる…。3マス戻る。

38

39 2016 KANA-BOON しれっと結成10周年！ 過去を振り返る。3マス戻る

40

41 2016.9 大阪府堺市の「堺親善アーティスト」第1号に就任 こんぺいとうを作る。1回休み

42

43 ダイエットスタート!! 糖質制限を始めて頭が回らない!! サイコロもう1回ふる!!

44

45 ダイエットが成功する。マイナス9キロ!! 9マス戻る。

46

47 2017.9 4th アルバム「NAMiDA」を発売！ 大傑作完成！3マス進む

48

49 ゲームのやりすぎで仕事が手につかない。半歩進む。

50

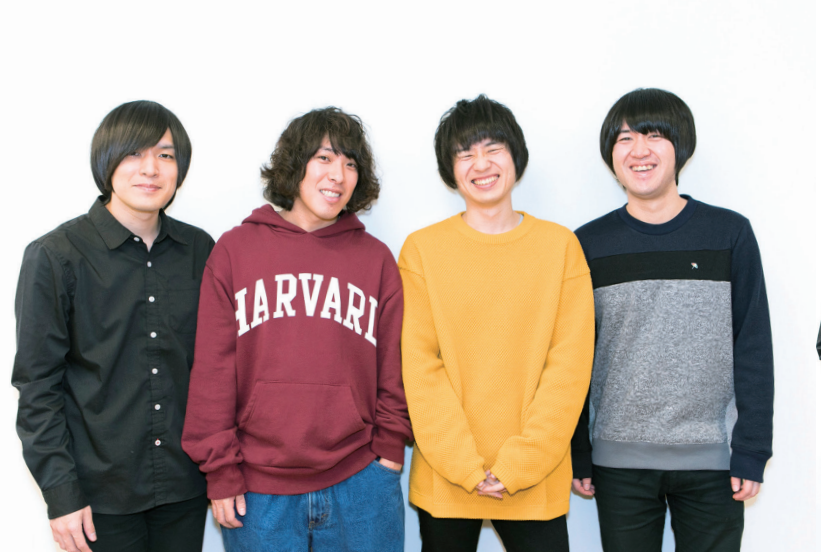
51

52 5周年の準備!! ⚀が出るまで進めない!!

53 2017→2018 初の年越しライブ「KANA-BOONのバイバイハローツアー 2017 年越し編 ～バイバイ 2017、ハロー 2018！～」を大阪堺市で開催。 お正月のんびり過ごす。2回休む

54

55 GOAL KANA-BOON 5th Anniversary



メジャーデビュー5周年！これまでと、これからと。

2013年9月に1st シングル『盛者必衰の理、お断り』でメジャーデビューを果たし、今年メジャーデビュー5周年を迎えたKANA-BOON。多くの人に愛されるキャッチー且つ力強い楽曲でいまやシーンに欠かせない存在となった彼ら。バンドの歴史を辿りながら、5年間の思い出と、アニバーサリーイヤーの決意を語ってもらった。

Photo：谷浦龍一　Text：+Hスタッフ

――記念すべきKANA-BOONメジャーデビュー5周年特集ということで、今日は色々聞いていきたいと思います。

谷口鮪(以下:鮪)：宜しくお願いします。

――まずはメンバーそれぞれに質問です。といいつつ、画伯めしださんにだけ質問ではなくお願いがありまして…+Hに載せるイラストを描いて欲しいです。テーマは「5周年」と「犬」でお願いします。

飯田祐馬(以下:飯)：分かりました～（以降、暫くイラスト制作に集中）

――まず小泉さん、昨年ツアー中から、筋トレをされていましたが…年末年始にお正月太りされてないですか?

小泉貴裕(以下:小)：親も筋トレの事を知っているんで、正月実家に帰ったら温野菜しか出してくれなかったです…。

――実家ですら!?(笑)

鮪：でもこいちゃん絶対太ったで(笑)

小：俺太ってない!絶対絶対太ってない。

古賀隼斗(以下:古)：太った太った。

小：昨日もー応ジムに行って、筋力増えてたんで。

鮪：でも正月明けに会った時、あれ?って思ったよな(笑)実家でちょっとだけ食べたやろ?

小：食べてない。まじで食べてない。肉は食ったよ。

古：衣がついたものは食べてないんや。

鮪：おもちは?

小：おもちも食べてない。家族みんな、俺に気を遣って、俺の目の前では天ぷらとか誰も食べてなかった(笑)

――では、リバウンドはしていないんですね?

小：してません!

鮪：怪しいなー(笑)

――古賀さん、私たちには違いが分からないのですが…今までのアー写の衣装の中で一番気に入っている衣装はどれですか?

古：今回の5周年のやつ、めっちゃ気に入っています!ネクタイが赤なんですよ。

鮪：ネクタイが気に入ってんの?(笑)

古：バランスというか。「talking」のときも赤ネクタイだったんですけど、ちょっと白が入っていたりして、ちょっとなんか、ソッチ寄りというか…

鮪：どっち寄りなん?(笑)

――今までのやつも、ちゃんと違いがあるんですね(笑)

古：違います!襟がなかったりとか…

鮪：メンバーも全然分からないですからね。

――では鮪さん、最近お気に入りの漫画を教えて下さい。

鮪：ツイッターで話題の「こぐまのケーキ屋さん」にハマってて。あれ、めちゃくちゃかわいいんですよ。読みながらめっちゃ癒やされてて…カメントツさんって作家さんで、この人の単行本とか普段描いている漫画が、ぜんぜん違うねん。そっちの漫画の方が、めっちゃ面白いから、そちらをみんなに読んでほしいです(笑)

――ここからは、4人全員にお聞きしていきます。5年前から変わらずに続けていることってありますか?

古：メンバーみんなでだと、5年前からじゃないけどラジオ体操は続けてるかな?

鮪：最近やん(笑)

飯：3年くらい前じゃないかな?対バンしてからやもんな、マキシマム ザ ホルモンと。

古：それより前から続けてやってることってなくない?ライブ前に「オイッ!」って気合い入れるのもさ、いうて最初からはやってないやん。

鮪：個人的にやったら?

古：個人的にやったら、黒シャツをライブで着るっていうのはずっとやってるな。

鮪：ほんまやな。デビュー以降は…それだけなんや(笑)

古：鮪とかライブ前に好きな音楽聴いたりとかしてないっけ?

鮪：してない。…サプリ飲むとかじゃない?(笑)

古：あーサプリ飲んでるな!

飯：え!?サプリ飲んでるの!?それ変わってしまった所なんちゃうん?続けてることやなくて…

鮪：飯田だけやで、サプリ飲んでないの。

古：最初から飲んでんで。

飯：最初からって何なん!?俺だってあれやもん、スタッフに怒られたもん。「若い時からそんなん飲むな」って。

一同：(笑)

鮪：なんで飯田だけ言われてんの!?(笑)

飯：後ほどシンドくなるからやめとけって…コンビニで疲れたなー買おうかなーって思ったら「やめときー」って…

鮪：それなんか薬に頼るなってことやったんやろ?パワー系のサプリやったんやないの?(笑) 俺らビタミンとかやで。

飯：多分あのー、何やったけ…ローヤルゼリーみたいなやつやったで(笑)

鮪：それはあかん。若いのにそんなんあかん。そら若いうちからって言われるわ(笑)

飯：そうなんや…

古：個人のは色々あるけど、長いことみんなで続けていることはライブ前の円陣ですかね。

――今までのリリース作品の中で気に入っているジャケットはどれですか?

飯：(並べられたCDを見て)うわ、こう見るとすごいな～。

鮪：せーの!で指差す?

飯：わー難しいなー…

一同：せーの…わー!全員フルドライブ!!(※通常盤)

鮪：絶対これ!

飯：これはいいですねぇ。

鮪：一番どれ?って言われたら間違いなくこれになってしまうな(笑)

飯：俺がもし違うバンドやったらジャケ買いしてんもん(笑)

鮪：だって、爆発してんねんで?(笑)ほんまにやもんな。撮影当時の感動補正もあるかもな。

飯：すごい音やったもんな(笑)感動したなあ。

鮪：スーパー戦隊シリーズってこんな感じなのかなって(撮影の時)思ったもんな。

――まさかの全員一致でしたね!しかも初回盤じゃなくて、皆さん通常盤なんですね(笑)

鮪：全員これなんやな。アルマゲドン感あるやつ(笑)

――最後に5周年イヤーの意気込み、ファンの皆様へ一言お願いします!

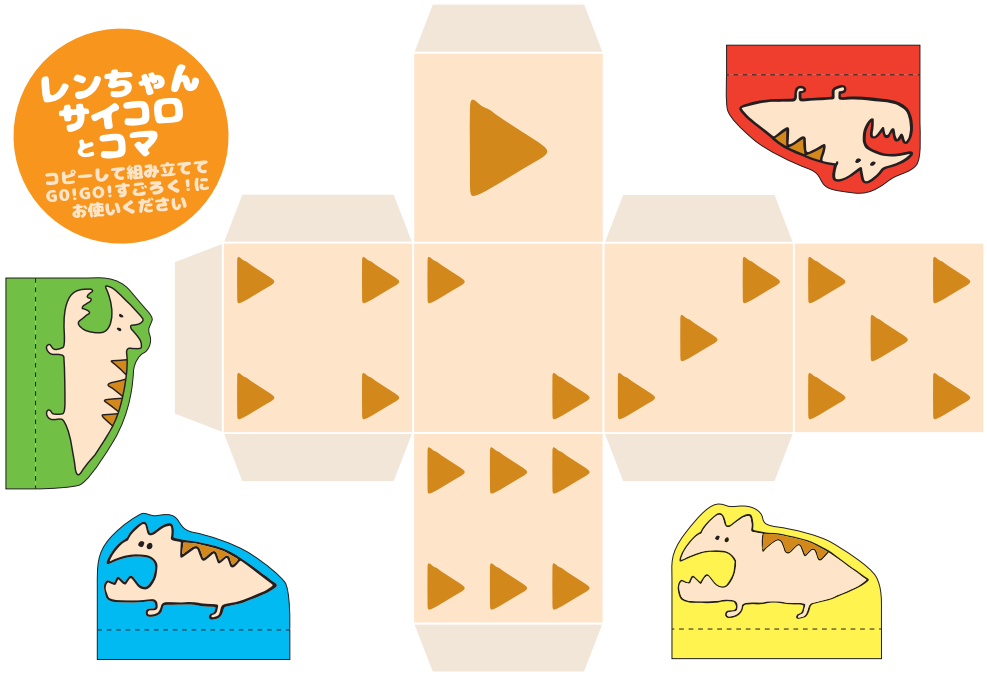
小：5周年ということで色んなことをやるので、この1年を"KANA-BOONの年だ"って言ってもらえるような年にしたいと思うし、僕ら自身にとっても大切な年になると思うんで、しっかり見守ってほしいなと思います。

古：僕らの本気度というか、今年は滅茶苦茶やってやるぜ!という意気込みが、皆にひしひしと伝わる年になると思う。一つ一つ思い入れ深くやるつもりなので、一個一個大切に受け取っていってもらえたらなと思います。

飯：5周年で、リリースとかイベントとか色々やるんですけど、すごい楽しみですし、ファンの方が喜ぶようなことを考えてるんで、チェックしてほしいです。ちゃんと来てくれた人に後悔がないように頑張るので、これからも宜しくお願いします!

鮪：ほぼメンバーと同じですが(笑)…一生懸命に今曲作りやってたりもするし、なによりも5周年、このメジャーシーンでやってこれた喜びみたいなものを、メンバーとファンで一緒に噛み締めつつ、10周年も期待できるような5周年にしたいなと思います。

めしだ画伯
「5周年」と「犬」
2018年
クレヨン/色紙
Meshida Gahaku
5th Anniversary & a Dog



KANA-BOONのGo!Go!5周年!

5シーズン・5リリース・5イベント!

シーズン1

LIVE

三国ヶ丘FUZZ 5日間連続ライブ

「Go Back Home」

3.21（水・祝）ワンマン
3.22（木）ワンマン
3.23（金）ワンマン（アコースティックライブ）
3.24（土）「Go Back Home ～ゆとり～」
w / コンテンポラリーな生活 / オトワラシ / ジラフポット
3.25（日）「Go Back Home ～ゆとり～」
w / コンテンポラリーな生活 / オトワラシ / ジラフポット

RELEASE

2018.3.14 RELEASE!

B面集
『KBB vol.1』
・初回生産限定盤（CD+DVD）
KSCL-3040～3041/￥3,600（税抜）
・通常盤（CD）
KSCL-3042/￥2,500（税抜）

CLIP集
『KANA-BOON MOVIE 05 / KB CLIPS ～サナギからもぞもぞ編～』
・DVD KSBL-6303/￥2,778（税抜）
・Blu-ray KSXL-254/￥3,241（税抜）

シーズン2

LIVE

Zepp東名阪ツアー

5/30（水） 東京 Zepp Tokyo
6/07（木） 愛知 Zepp Nagoya
6/08（金） 大阪 Zepp Osaka Bayside
※対バンなど、詳細は後日発表！

RELEASE

2018.5.30 RELEASE!

ミニアルバム(タイトル未定)

続くシーズン3,4,5 後日発表!! お楽しみに!!!!!

http://kanaboon.jp/feature/5th_anniversary

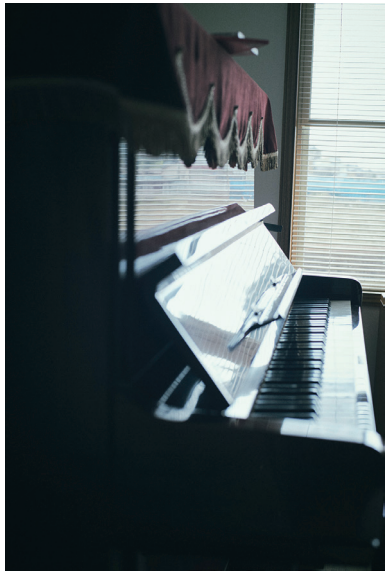
SPECIAL：02

The fin.

「そこ」にある日々を鳴らす

Photo：山川哲矢

Relax!



「そこ」にある日々を鳴らす

神戸出身の3人組「The fin.」。1年半に及ぶイギリスでの活動を経て、3年半ぶりのフルアルバム『There』を完成させた。ボーダレスに海外と日本を行き来し、メンバー共同生活で音楽を作り出している。気負いなく音楽と共に生活する彼らを紐解くべく、自宅兼プライベートスタジオを訪ねた。

Photo：山川哲矢　Text：+Hスタッフ

――(撮影が終わって、)今日はとても天気が良くて、撮影日和でしたね。

Yuto Uchino(以下Yuto)：今日の天気はなんか春っぽいな。暖房入れて無くてもこんなに暖かいし…。

――久しぶりの日本で、しかも関西出身の皆さんにとっては知らない土地での生活をしていますが、不便だなと感じることはないんでしょうか?

Kaoru Nakazawa(以下Nakazawa)：でもその不便すら利用して…

Ryosuke Odagaki(以下Ryosuke)：運動してる。

Yuto：不便と言うたらスーパーマーケットがちょっと遠いなぁくらい。

Ryosuke：でもそれも運動として捉えてるから…

Yuto：割と楽しくやってるよな。

――台所に散見されたプロテインがすごい気になりました…なんでそんなに運動に固執するようになったんですか?(笑)

Yuto：一人ひとり飲んでる理由は違うやんな。やってることは同じやけど。

Ryosuke：理由は違うな。

Yuto：Ryosukeとかギター上手くなるためにプロテイン飲んでるからな(笑)

――全く結びつかないのですが…本当に、ギター上手くなりたい!がまず念頭にあって、その解決法として?

Ryosuke：いや!プロテインはあくまでその一個の要素です。

Yuto：最近整体に行ったりな。

Ryosuke：ギター上手くなりたいから(笑)そこの整体はサポートメンバーが教えてくれたとこやねんけど、行ってみようと思って。

Yuto：その話をマネージャーにしたら「Ryosuke君、外側から埋めようとしてるんですね」って。

――厳しい一言…でも言いそうですね(笑)

Yuto：まぁでも、割とどこでも住めそうって思うな。

――イギリスに行った時も言っていましたよね。

Yuto：どこでも平気やな。イギリス楽しかったなめっちゃ。家、広かったしな。

――イギリスもまぁまぁ郊外の田舎に住んでいるようでしたけど。

Yuto：今と比べたら全然都会やったで。

Ryosuke：スーパーマーケットも近かったしな。

――基準が全部スーパーマーケットになっちゃってますね!(笑)

Yuto：俺らスーパーマーケットと飲み屋があればどこでもやっていけるもんな。

――不思議なんですよ、こんな26歳は身近にいないので。日本にはこういう生活をしているバンドも、他にいないと思うんですよ。The fin.って、数年前から言われている「洋楽がルーツの～」とか「シティ・ポップ」と括られている、他のどのバンドとも実は似ていない存在だと思うんですよね。

Yuto：実はド田舎ポップなんちゃう俺ら?(笑)カントリーサイドポップ?(笑)そもそも俺らの出身の宝塚もな、田舎というか。

Ryosuke：住宅街やな。

Yuto：シティ・ポップって言われてるときの違和感半端じゃなかったな。誰もシティ出身じゃないし…みたいな。

――さっき+Hスタッフも言っていたけど、他のバンドマン、アーティストにとっては住んでいる家でいつでも生音がしっかり出せて曲作りが出来るこの環境は、憧れだと思います。

Yuto：うん、ええよなめっちゃ。

――この環境に越してきてから、もう新しい曲を作ったんですか?

Yuto：作った。今年は2曲書いて。去年一時帰国した時に泊まっていた狭山(埼玉県)でも作ったし。イギリスのケントに住んでいた時も、作業する部屋のスピーカーの向こうがすぐ庭やってん。だから、外の風景見ながら作業できてたんよ。んで、狭山の時も窓の向こうが川やってん。今の家も窓から向こうの景色が見えんねんけど。結構それが良くて。東京に住んでいた時は、真っ白な防音の部屋に住んでいたから。ちょっと牢獄感があったんよな。外の音も聞こえへんし。シーンってするし…10畳やからそんなに広くもなかったし。煮詰まりやすいというか。情報がなさすぎて。

――閉鎖空間だったわけですもんね。

Yuto：そうそう。イギリス行ってからは、めっちゃ家も大きいし、音も人の声とか、鳥の鳴き声とかがふと聞こえたり。情報が多いから、煮詰まっても気分転換しやすかったりして、音楽作りやすくなったな。あと多分、いつでもドラムが叩けるってのがデカイかな。

――最近のYuto君の話題といえば、もっぱらドラムのイメージです(笑)

Yuto：最初The fin.が始まったときはまずシンセを買って…やから楽曲が結構シンセメイン、みたいな。ギターは最初からやっていたけど。で、まぁ歌とかもずっと練習してるけど。この『There』作ったときはベースの練習に結構ハマっていて。音楽聴く時もベースをよく聴いたりしていて。この作品は結構その影響で、ベースが良くなったと思う。あと、ずっとドラム叩きたいなと思ってて。東京に住んでいた時も10分くらい早くスタジオ行ってドラム叩いたりしててんな。イギリスに移住してからドラムが叩ける環境になって、ちゃんと叩けるようになろうと思って練習して。やからドラム始めて1年くらいかな。(曲作りにおいて)自分で叩けた方が一番簡単やし、アレンジもやり易いし。今Nakazawaがベースになって、俺がドラム叩いて最近一緒に練習しているから、それが実ってきてるよな。リズムへのアプローチ、リズムへの理解度とかが高まってきてるから、俺がボーカルして、シンセ弾いたりギター弾いたりしてても、めっちゃ合わせやすい。

――そうなったきっかけはやっぱりイギリスでの共同生活があって、常に音を出せる空間にいたことなんですね。

Yuto：イギリスの時より良くなってるよな。続けていることで。基本的に、なんか俺がドラム叩いたりして、みんなと色々合わしていくと、みんなの演奏の感じももっとわかりやすいから…多角的に見れるというか。

イギリスっぽい音が自分のスタンダードになった

――イギリスでの制作は、バンドとしては初めて外部のプロデューサー(Bradley Spence)と仕事をしたことも大きかったのでしょうか。それまではミックスまで自分でやっていたんですよね?

Yuto：それはめっちゃ大きくて。一回全部東京で録って、最後ミックスと追加のレコーディングをイギリスでやって。めっちゃ楽しかったな。今まで独学で、誰かに教えてもらってとかじゃなかったから、どうやってやったらいいかわからんことが多くて。で、それを今回は全部一緒にやってくれたから。

――プロデューサーと、密にコミュニケーションをとりながら作業することになりますよね。

Yuto：そうそう3人で回して作業したりとかね。Bradleyがいじって、その後にAlexって人がいじって、次俺がいじって…ていうのをぐるぐる回していくみたいな、セッションみたいな感じでもやったし。でもやっぱ、耳が変わったかな。イギリスの音になったというか。イギリスっぽい音が自分のスタンダードになったから。結構こっち(日本)で音作ってても感じる。

――単にイギリスに拠点を移したっていうだけでなく、そういう人と一緒に仕事をした部分は大きかったんですね。

Yuto：音って無形やからさ。形がない分、ノウハウとかってパッケージされちゃうと残りにくくて。でもスタジオとかプロデューサーって、そういう知識をいっぱい持っているから、そういう無形のものを引き継いでいくみたいなところがある種あって。例えばイギリスとアメリカってレコーディングの方法が全然違うんやけど、それはやっぱアメリカが積み重ねてきたノウハウと、イギリスが積み重ねてきたノウハウがぜんぜん違うからであって。

――パッケージされたものをめちゃくちゃ聴いて、「これがイギリスの音だ!」という風に聴くだけでは理解できない部分があるわけですね。

Yuto：そうそう、ノウハウとか感覚みたいなものって、一緒にいないと分からなかったりするから。難しいことやけど、それはもう受け取るしかないことやから、こっちが。

――どれくらいの期間一緒に仕事したんですか?

Yuto：全部で2、3ヶ月やったかな?実は『There』が完成したのは割と最近やけど、マスタリングを一回やり直してて。本当は1年くらい前にマスタリングしてたんよな、違う人にやってもらって。それが全然気に入らなくて(笑)リリースが遅れて遅れて、イギリスとアジアのタイミングがなかなか合わなくて。イギリスとアメリカではこの『There』が1st アルバムになる。

――こういう話を普通にしてるけど、やっぱり聞かないと私たちには中々わからないんですよね。『Outskirts』などストリーミング配信で数曲発表していましたが、その反応は?

Yuto：あれは全世界でタイミングを合わせて配信してて。主にあれやってたのは海外に広めるためで。

――日本ではそもそもやり方として主流じゃないですからね。

Yuto：日本の人からしたらちょっとよく分からない感じに見えてると思うけど、海外はストリーミングサービスのプレイリストに入って、そっから広まって…って、ほんまに一曲ずつ大きくなっていっていて。この間配信した『Snow(again)』が、SpotifyのUKとUSの一番大きいプレイリストに入って。そうやって、やってきたことが今実を結んできている感じなのかな。日本って結構、海外と音楽業界のやり方が違うから、結構同じようにやるのが難しくて。やから、こう上手いこと合わせてやっていくっていうのが、The fin.の難しいところなのかなって。多分分からへんもんな、日本の人は。海外でどうやって広まっているのかって言っても。

――日本だとこのやり方自体が馴染みのないものですから。

Yuto：まあでも、結果じゃないすか(笑)結果を出せば、みんな分かってくるのかなって。『Snow(again)』でやっと繋がってきているなって分かってきたかな。

――もう次の曲作りに取り掛かっているとのことですが。

Yuto:まぁでも、そうしとかないと次出せないからね(笑)新しいアルバム出すときにはもう大抵、次のアルバムの曲作ったり考えたりしてるから。

「イメージを掴む」みたいなイメージでThereにした

――最後の質問になるのですが、アルバムタイトルに込めた思いを教えて下さい。神戸から東京にでてきた、と思ったら国を飛び越えイギリスにいき、日本に戻ってきた、と思ったら東京ではなくちょっと田舎に…なんか住所不定感があるんですよ。なのにアルバムタイトルがThereだったので、「Thereってどこ?」ってなって(笑)

Yuto：確かに(笑)どことかやなくて、抽象概念やから、なんかこう、イマジネーションかなと思ってる。どっかにこう手を伸ばす感覚みたいな。常にこの頭のスペースが動いていて、その頭のスペースをどこか飛ばしてそれを掴む、「イメージを掴む」みたいなイメージでThereにしたんやけど。

――タイトルはアルバム制作時に決めたんですか?

Yuto：一番最後に付けた。全部の出来た曲をみて。『Days With Uncertainty』の時はアルバム一番最後に収録されている曲の名前をそのままもってきたんやけど、あれはその曲が割とアルバムを包括しているなと思ったから。今回も最後の曲のテーマはすごいしっかりしてたんやけど、でもアルバム全体としてはもっとテーマが広いなと思って。その時にこの数年間はどうやったかなって思って、なんかこう自分が小さい時とか、人間って小さい世界で育つから、学校とか社会が狭いところで。その時から夢見る少年やった、色んな所にイマジネーションを飛ばすようなね。こういうのはどうなんかな、この国はどんなかな、とかこうなったらこうかな、とか色々考えてきて。で、音楽で生きていくっていう夢が一個叶って、自分で海外にも行って、いろんな国を見ていろんな人と喋って、自分の世界はこう広がったけど、意外と自分の頭の中のそのキッズな部分みたいなのはずっと残ってて。そこのイマジネーションのスペースがあるから、多分自分はずっと夢見れるし、ずっと表現もできるし。なんかこう、人が何かをイマジンするっていうのは、どっかに手を届かそうとするってことやから、でも人はきっとそうやって進化してきたし、こう(ビール瓶を持って)例えばビールとかも、こうやってビールを好きな人が美味しいビールを描き続けてこなかったら多分この美味しいビールは飲めなかったし。そういうなんか、イマジネーションと言うか。そういうクリエイティブなところが人間たる所以というか。やっぱ人間はクリエイティブやし、そのクリエイティブがだんだん繋がって、人の生活が豊かなものになって。そういうサイクルみたいなものを自分の中に感じ出した時期やったから。クリエイティブであること、みたいな。なんかそこでイメージするじゃないけど、どっかに手を伸ばす…って感じでThereって名付けた。

――思っていた以上に、良いお話が聞けました…ちゃんと記事にできそうでよかったです(笑)

Yuto：いつものインタビューの時とか、もっと真面目にやってんねんで(笑)俺、いつもインタビュアーに、ちょっとの質問でいっぱい喋るから、すごい良かったですって言って帰ってもらえるから(笑)もう一番困るのはこの人!

Nakazawa：真逆よ。

一同：笑

2nd AL

『There』 RDCA-1055 初回盤［CD+ZINE］ ¥3,300 / RDCA-1056 通常盤［CD］ ¥2,500(税込)

2018.3.14 RELEASE

01. Chains
02. Pale Blue
03. Outskirts
04. Shedding
05. Afterglow
06. Missing
07. Height
08. Heat (It Covers Everything)
09. Vacant Sea
10. Through the Deep
11. Snow (again)
12. Late at Night
13. Alone in the Evening (1994)

Spotify プレイリスト「New Music Friday(US・UK)」に収録楽曲「Snow (again)」が選ばれる

「New Music Friday」とは? 世界統一の新曲リリース日である金曜日に毎週発表される新曲を取り上げるプレイリストでUSとUKを合わせ約300万人にフォローされており、世界的に影響力のあるプレイリストである。

"The fin. Tour 2018"

3/08（木） 中国 Chendu - Little Bar Space SOLD OUT
3/09（金） 中国 Beijing - YugongYishan SOLD OUT
3/10（土） 中国 Shanghai - Mao Livehouse SOLD OUT
3/11（日） 中国 Hangzhou - Mao Livehouse SOLD OUT
3/13（火） 中国 Nanjing - Ola Space SOLD OUT
3/14（水） 中国 Wuhan - VOX SOLD OUT
3/15（木） 中国 Guangzhou - T-Union SOLD OUT
3/16（金） 中国 Shenzhen - B10 Live SOLD OUT
3/18（日） 香港 Eaton Workshop SOLD OUT
3/21（水・祝） 熊谷 HEAVEN' S ROCK VJ-1
3/24（土） タイ Khon Kaen - TOEY Freshtival 2
3/25（日） タイ Bangkok - Voice Space
3/31（土） 台湾 Taipei - Legacy
4/02（月） フィリピン Manila - 19 EAST

"Japan One Man Show"

4/04（水） 福岡 The Voodoo Lounge
4/06（金） 梅田 Shangri-La
4/07（土） 名古屋 Jammin'
4/13（金） 渋谷 WWW X
4/14（土） 札幌 SPIRITUAL LOUNGE

公演の詳細はオフィシャル HP をご覧ください→
http://www.thefin.jp

"VIVA LA ROCK 2018"

5/03（木・祝） 埼玉 さいたまスーパーアリーナ

avengers in sci-fi
15th.anniversary

昨年2017年で結成15周年を迎えた「avengers in sci-fi」。昨年はレーベル機能などを持つ"クリエイティブベース"と銘打った「SCIENCE ACTION」の設立。また、彼らのサウンドの特徴でもあるエフェクター/シンセサイザーなどを使わずに、メロディとハーモニーを際立たせたアコースティックライブにも挑戦したり、2004年～2010年にリリースした楽曲オンリーでセットリストを構成した東名阪ツアーなど、15周年を盛り上げるべく精力的に活動を行ってきた。そして、2018年3月18日(日)新木場STUDIO COASTにて、結成15周年のフィナーレを飾るイベント「SCIENCE MASSIVE ACTION」を開催する。この15年をともに歩んできた盟友、背中を追いかけた先人、次世代を担う若手。世代を超えたアベンズゆかりのアーティスト達が集結したパーティーとなっている。ぜひ会場に足を運び、彼らの雄姿を目撃してほしい。

avengers in sci-fiの新たな活動基盤

"SCIENCE ACTION" とは？

SCIENCE ACTION とは音楽レーベルとしての機能をはじめ、アーティストや映像作品への楽曲提供/プロデュースからアートワーク、マーチャンダイズ、モーショングラフィックのデザインなど音楽/アートにまつわる分野を中心に幅広い活動を行うチーム。謂わば "クリエイティヴ・ベース" です。

SCIENCEACTION

avengers in sci-fi 15th.anniversary

SCIENCE MASSIVE ACTION

15TH.ANNIVERSARY

"SCIENCE MASSIVE ACTION"

2018.3.18(SUN)

新木場STUDIO COAST

OPEN 13:00 / START 14:00

チケット前売：¥4,500 (D別)

■チケット一般発売中→

木幡太郎(Vo/Gt/Syn)による全出演者紹介

9mm Parabellum Bullet

この人達は何でこんなにもステージで暴れ、のたうち回るのか…ライブはチケット代に対する対価…とかそういう合理性の向こう側にいる人達。聴衆と音楽に対する無償の愛だ。

the band apart

内輪かつ独自のダンディズム。一見近寄りがたい。だけど誰しもがそこに痺れる憧れる。ロックバンドの魅力の本質ってそんな感じかなと。なにそれ、バンアパのことじゃん。

THE BAWDIES

同じ部活のメンバーが集まってバンド組んで…まさにロックンロールという名の奇跡。サイケ期ビートルズ化の一途を辿るジムのルックス、個人的には支持してる。

the chef cooks me

ほんと出会った頃から刺激をあたえられムカつかせてくれる。先にやられたか！クソッ！て感じで。新曲『Now's The Time』はまたしてもそんな曲…ムカついたぞ。

Czecho No Republic

本当に趣味が良いんだよね～。曲もルックスも。武井君のただのいいやつじゃ無いぜって雰囲気が好きです笑！ただのいい人ってろくな曲作んないからね。

DATS

クールな様で熱いものがギラギラしてる。さりげないけどギンギラギン。若者＝冷めてるもの。なんてのはやはり年寄りの作り出した虚像なのだ。

DE DE MOUSE

完璧に年齢不詳ですよね。ずっと妖精のまま笑。今のデデさんはもしかしたら何代目かのデデソウルブラザーなのかも…。ただのいい人じゃ無い、さらっと吐く毒が好きです！(笑)

a flood of circle

佐々木君には並々ならぬドーパミンを感じる。いつも年下ぽくしてるけどいつぞやのGetting Betterツアーで片平さんとやりあってたのはやはりロックンローラーなんだと。

FREE THROW

いつも甘えっぱなしで…出禁にならないのが不思議です。すいません。(笑)人生の勉強を大いにさせてもらった場所。学んだことは主に詩作に反映させてもらいました。

フレンズ

太郎とは名前が一緒だし、ドラムのルイ君とは同じ駅にかつて住んでおりTSUTAYAで2日連続遭遇を果たした。キャリアは伊達じゃ無いと言わんばかりのソングライティング力。

FRONTIER BACKYARD

僕等にとっては神話の世界の人達。そんな人達にツアーに誘ってもらったり自らの節目に招待するなんておこがましいのだけどかつての自分には大いに自慢したい！

imai (group_inou)

group_inou時代から彼の"節(ぶし)"がどの曲にも一貫して宿っているのが本当にすごい。まるで呼吸する事と作曲が同義と言わんばかりだ。imai というジャンル。

LITE

昔は演奏がズレたら死ぬ。と言わんばかりの神経質なライブ直前楽屋リハを繰り広げてたけど海外ツアーに行った頃から"ロックバンド"っぽくなったよな笑！（良い意味）

DJ 石毛輝
(lovefilm / the telephones / Yap!!!)

ふざけてる風でいてソングライターとしては凄く音楽に対して真面目だよね？昔は見た目の類似性が指摘されていたがその辺は俺とは逆かもな。俺は音楽舐めてる…だからタメロなのか…。

DJ 松本誠治

北海道の打ち上げで披露したんだそうな稲川淳二ばりの怖い話が未だに語り草になってる男。その場面俺だけ見てないんだよね…。今度聞かせてくれ！

avengers in sci-fi

ヒゲとノッポと膨大な機材運搬する度に解散がチラついた15年。
結局他にやる事ないし似た者同士なんだろう。
今が一番カッコいいと思えるのは昔も今も変わらない。

ユアネス

HIP LAND MUSICによる新人発掘プロジェクト（オーディション / イベント）「xsprout.」からのデビューとなる、福岡で結成された4ピースバンド「ユアネス」。ボーカル黒川の琴線に触れる歌声と、美しいメロディを軸に変拍子を織り交ぜるオルタナティブなバンドサウンドが特徴的で、重厚な音の渦の中でもしっかり歌を聴かせることのできるLIVEパフォーマンスは、ライブハウスシーンでも既に話題となっている。福岡を拠点に活動していながら、2018年2月1日に東京で初めて開催された自主企画はSOLD OUTとなり、多くの人の心を揺さぶった。そして、3月21日にバンド初となる全国流通盤1st Mini AL『Ctrl+Z』がリリースされる。詞世界を含め音が一つの物語りを織りなすような作品に仕上がっており、4月からはリリースツアーが決定している。心揺さぶる声、シンクロするバンドアンサンブル、次世代のギターロックを体感してもらいたい。

1st Mini AL

『Ctrl+Z』 YRNS-0001 ¥1,800（税抜）

2018.3.21 RELEASE

1. 雨の通り道
2. 虹の形
3. cinema
4. あの子が横に座る
5. Bathroom
6. pop
7. 埃をかぶった時刻表
8. 100㎡の中で

Ctrl+Z Tour 2018

「うつ伏せになっていた午後の授業」［ワンマン］
04.14（土） 渋谷 TSUTAYA O-nest OPEN 18:30 / START 19:00

「理想とはかけ離れた日常」［3マン］
04.20（金） 梅田 Zeela OPEN 18:30 / START 19:00
w / CRAZY VODKA TONIC、LINE wanna be Anchors

「あの頃の自由と今の自由」［ワンマン］
05.05（土・祝） 福岡 INSA OPEN 18:30 / START 19:00

TICKET 前売 ¥2,500 / 当日 ¥3,000 （D別）
※高校生までの学生の方には、学生証のご提示で500円をキャッシュバック致します

odol

［オ ド ル］

現代のアートロックと言える先進性とオリジナリティ、日本語詞の歌と美しいメロディから生まれるポピュラリティを兼ね備えた6人組ロックバンド「odol」。緻密なバンドアンサンブルと、Vo.ミゾベの透明感のある歌声が特徴的な彼ら。バンド史上最も風通しの良いポップな楽曲であり、伸びやかなメロディと柔らかな電子音と各楽器が有機的に絡み合い生み出されるバンドアンサンブルが印象的な配信SG『時間と距離と僕らの旅』を2018年3月14日に発表する。また「思考を超える実感の場を作る。」をテーマに掲げた自主企画「O/g」の開催など、己の「表現」というものを常に追求、挑戦、昇華をしている。今後、odolが我々にどんな表現を見せてくれるか、目が離せない。

配信SG

『時間と距離と僕らの旅』

2018.3.14 RELEASE

UKCD-1172H1

ダウンロード＆ストリーミング

odol LIVE 2018 “O/g”

「O/g-1」 03.14（水） 福岡 INSA

Guest Artist：King Gnu / LILI LIMIT

「O/g-2」 03.15（木） 梅田 Shangri-La

Guest Artist：LUCKY TAPES / LILI LIMIT

OPEN 18:30 / START 19:00 TICKET 前売 ¥3,300（D別）

+H RECOMMEND

Mr. ex

［モルカルマイナスナナジュウヨン］

▷（Saisei）をお聴きになる前に

1曲目から6曲目までストーリーがあります。主人公は曲によってそれぞれ違いますが、それぞれの“冬の夜”があり、“夜明け”への想いを描いています。
曲順は時系列に並んでいます。夜から朝へのグラデーションを音で、リズムで、そして言葉で表現しました。そんな僕たちの作品への想いが届きますように。
どうぞお聴き下さい。そしてリアーにも遊びに来て下さい。
夜は、明ける

武市 和希

New Mini AL

『▷（Saisei）』

NOW ON SALE

LADR-013 ¥1,900（税抜）

01. ●（Fanfare）
02. ▷（Saisei）
03. ▷▷（夜行）
04. ||（Frozen Time）
05. ◁◁（瞼）
06. □（StarT）

京都にて結成された「mol-74(モルカルマイナスナナジュウヨン)」。日常にある身近な感情をVo.武市の透き通るようなファルセット・ヴォイスを軸に、北欧のバンドにも通じる冷たく透明でありながら、心の奥底に暖かな火を灯すような楽曲で表現している。サポートを務めていたBa.髙橋が昨年秋に正式加入し、加入後初となる作品『▷（Saisei）』を2018年1月17日にリリース。美しく繊細で叙情的なサウンドが話題を呼んでいる中、1月に京都から始まった本作のリリースツアーのワンマン編が3月24日よりスタートする。壮大なライブパフォーマンスは必見だ。

「▷（Saisei）」release tour

03.24（土）仙 台 LIVE HOUSE enn 3rd［ワンマン］
03.25（日）新 潟 CLUB RIVERST［ワンマン］
03.31（土）札 幌 SOUND CRUE［ワンマン］
04.06（金）福 岡 the voodoo lounge［ワンマン］
04.08（日）高 松 TOONICE［ワンマン］
04.15（日）大 阪 Music Club JANUS［ワンマン］
04.22（日）名古屋 APOLLO BASE［ワンマン］
05.13（日）恵比寿 LIQUIDROOM［ワンマン］
TICKET 前売 ¥3,200（D別）

xsprout. by HIP LAND MUSIC

LIVE

2017年よりスタートしたHIP LAND MUSICによる新人発掘プロジェクト「xsprout.」。2017年、3回に渡り開催されたイベントの出演アーティストを改めてご紹介。

#1

2017.08.15(tue)
下北沢BASEMENT BAR

かたこと

The Lump of Sugar

SUNNY CAR WASH

ユアネス

GUEST：Saucy Dog

Photo：Viola Kam (V'z Twinkle Photography)

#2

2017.10.04(wed)
下北沢ERA

STEPHENSMITH

Calmine

ベランダ

yeti let you notice

GUEST：the quiet room

Photo：石崎祥子

#3

2017.12.18(mon)
風知空知 下北沢

山形りお

大橋ちっぽけ

稲見繭

果歩

GUEST:えんま(mock heroic)

Photo：Kota Aoki

この「xsprout.」というプロジェクトの中で、1年を通してHIP LAND MUSICはとても多くのアーティストに出会うことができた。昨年3回開催されたイベントには、Web応募やスタッフの推薦から選ばれたアーティストが出演し、イベント当日はもちろん、ライブレポート、YouTubeでのアーカイヴ映像公開などを通じてアーティストの魅力をお伝えしてきたが、皆さんに新しい音楽との出会いはあっただろうか。2018年も「xsprout.」は止まることなく、次世代の才能と出会うべく、新しい挑戦を続けていく予定だ。続報をお楽しみに。

「xsprout. #1,#2,#3」 YouTube→「xsprout.」で検索
ヒップランドYouTubeチャンネルにてライブ映像公開中!

AUDITION

xsprout. by HIP LAND MUSIC

xsprout.(エクスプラウト)とは…
"未知"や"乗算記号(×)"を意味する「x」と
"新芽"や"成長"を意味する「sprout」に由来した造語

プロジェクトへの応募やプロジェクトスタッフの推薦の中から、
"ぜひライブで観てみたい" "より多くの人に知ってもらいたい"
と感じたアーティストを、ライブイベント『xsprout.』へブッキングします。

HIP LAND MUSICはこのプロジェクトを通して、
今後のリリースや、マネジメント契約を視野に入れ
一緒に活動していくアーティストに出会いたいと考えております。

応募いただいたデモ音源は『全て』聴かせていただきます。
皆様からのご応募お待ちしております。

http://www.hipland.co.jp/audition

+H PHOTO

山口一郎（サカナクション） 2018.02 NHK-FM Night Fishing Radio

フレデリック &Kezzardrix（INT）& 清水基（INT） 2017.12.29 COUNTDOWN JAPAN 17/18

THE ORAL CIGARETTES & フレデリック & LAMP IN TERREN & パノラマパナマタウン & Saucy Dog & YAJICO GIRL
2018.01.21 MASHROOM 2018

岩渕想太（パノラマパナマタウン）& 四方佑人（YAJICO GIRL） 2018.02.18 渋谷チェルシーホテル

Predawn 2018.02 Predawn 10th Anniversary Special Live at Billboard Live TOKYO リハーサル

odol 2017.02 アーティスト写真撮影 都内某所

ユアネス 2018.01 KKT ROCKET COMPLEX

mol-74 2017.02.16 渋谷 eggman

HIP LAND MUSIC

サカナクション

KANA-BOON

The fin.

奇妙礼太郎

TENSAI BAND II

odol

ユアネス

avengers in sci-fi

LITE

bonobos

Predawn

ワンダフルボーイズ

SUPPORT

米津 玄師

GOOD ON THE REEL

yule

mol-74

sweet boon music

ゴンチチ

EGO-WRAPPIN'

LONGFELLOW

BUMP OF CHICKEN

MASH A&R

THE ORAL CIGARETTES

フレデリック

LAMP IN TERREN

パノラマパナマタウン

Saucy Dog

YAJICO GIRL

INT

「インタラクティブ」「インターナショナル」をテーマにアーティストとメディアを中心とした新しい時代を創造するクリエーターのプロデュースを行う。

LIVE CREATIVE

舞台監督、ステージスタッフが所属しニーズに合わせた対応で、エンターテイメントの最前線であるライブの現場のサポートを行う。

xsprout.

次世代は担うアーティストを探すべく、オーディションとライブイベントを軸に展開する、新人発掘プロジェクト。

HIP LAND MUSIC CORPORATION

+H WEB

オリジナルのプレイリストやアーティスト情報をはじめ誌面上では載せきれなかった撮影風景や撮影裏話や音楽業界の裏側に迫るスタッフBLOGなども更新中！

本誌のご意見・ご感想はこちらまで!!

plus-h@music.hlg.co.jp

SNS

@hiplandmusic　@hiplandmusic

hiplandmusic　www.facebook.com/hiplandmusic

ハッシュタグ：#プラスエイチ

ヒップランドミュージックの公式LINEアカウントを開設。

ヒップランドミュージック公式アカウントでは「LINE LIVE」を使用した貴重なライブ映像配信ほか、ヒップランド関連の最新情報をいち早く発信。

LINEアプリ→公式アカウント→ヒップランドミュージックで検索

～+Hスタッフ編集後記～

編集長：根岸　@IchBin_Ngs

この季節毎年本当に辛い、花粉症。騒いだところで治まらないのは分かっているんですけど、鼻水が止まらない!目が痒いオマケに喉も痒い!!いつも悪あがきでハーブティー飲んだりヨーグルトを食べたりしてみるけど(もちろん処方箋はしっかり飲んでます)、多分一番の得策は「外に出ないこと」。24時間お風呂に入っていたい(泣)

編集担当：朝比奈　@_ashnsk

2018年、もう3月!?というくらいあっという間に時間が経っています…。最近美味しいものを食べるのが唯一の楽しみになってきてしまっているので、もう少し自分の趣味を増やそうかと思い、逃げ続けた英語を中学英語からやり直すことにしました。あと調子に乗って中国語の本も買いました。頑張ります。

デザイン担当：岩本　@hallo3310

どこにでもある、ありきたりなコンバースのチャックテイラーの黒。1年半くらい履いて良い具合にくたびれてきて、けどまだ穴や破れもなく良い仕上がりになってきた矢先。人生で初めて靴を盗まれました。大変ショックをうけ盗まれた翌日、すぐに新しい靴を買いました。またチャックテイラーの黒。汚れのない新品。春だし、またまっさらな気持ちで頑張りたい所存です。